

海外安全対策情報（2013年4月～6月）

1 社会・治安情勢

（1）増税等に伴う治安への影響

6月13日、ウガンダ政府は2013/14年度の国家予算案を発表されたところ、同予算案では各種増税及び新税が盛り込まれていることから、今後の国民生活は益々圧迫され、強盗・略奪等の犯罪増加等、治安が悪化する可能性があります。

（2）輸入品の検品義務化に対する反発

6月23日、ウガンダ政府は粗悪輸入品撲滅を目的に、未検品物品の輸入を禁止する計画である旨発表したところ、カンパラ市商業協会は、輸入に係るコスト増等を懸念して強く反発し、本計画の見直しを要求すると共に、見直しされない場合には、25日以降ストを行うよう各商店に呼びかけました。25日以降、市内マーケットを中心にストが行われたものの、これまでのところ大きな混乱は生じていませんが、今後、同計画が実施された場合には、治安の悪化に繋がる可能性もあります。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）盗難・強盗事件

○ミティアナ(Mityana)県

4月8日夜半、武装強盗がフォート・ポータル(Fort Portal)からカンパラへ向かっていたバスを襲撃し、乗客50名の携帯電話と所持金を強奪しました。

○5月21日、カンパラ中央警察は、新たな犯行手口として、香水販売員を装いクロロホルム（麻酔薬）を湿らせた紙を客に嗅がせ、意識を失わせて金品を窃取する事件が発生している旨注意喚起しました。

○ムバララ(Mbarara)県

6月12日、2カ所のバーに軍服着用の8人組強盗が押し入り、70万ウガンダシリングと携帯電話を強奪しました。

○報道(6月18日)によると、マツツ（乗合タクシー）乗車中に盗難・強盗に遭う事件が頻繁に発生しています。犯人は乗務員・乗客を装い集団で犯行に及んでおり、殺人事件も発展したケースもあります。

（2）殺人事件

○ワキソ(Wakiso)県

5月10日夜半、送金代理業の男性が射殺され、1600万ウガンダシリングが強奪されました。同業者による犯行とみられ、同様の被害は本年に入り5件発生していますが、何れについても犯人は逮捕されていません。

○リラ(Lira)県

警察発表(5月20日)によると、ボダボダ(バイクタクシー)運転手が鉄パイプ所持男性に殺害される事件が多発しています(半年間で10件)。

(3) 強姦事件

○ホイマ(Hoima)県

報道(4月4日)によると、18歳のボダボダ運転手が徒歩で帰宅途次の16歳少女を、強姦しました。

○マサカ(Masaka)県

5月9日、ボダボダ運転手が32歳女性を女性宅で強姦しました。

○報道(5月27日)によると、東ウガンダ地域(ムバレ、カプチョウルア、ブクオ、クエン、ブツダ、マナファ及びシロンコ県)では、本年1~3月の間に、400人以上の女性が強姦被害に遭っています。因みに、日本人が本件被害に遭ったとの報告はありません。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダにおけるテロの脅威は依然として高く、警察発表(4月28日)によると、警察は公共施設監視部隊を新設し、テロ警戒体制を強化しました。また、関連報道(5月7日)によると、警察はアル・シャバーブ関係者とされるテロリストを逮捕しました(人数や国籍は公表されていません)。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

5月1日、カンパラにて26歳女性がフェイスブックで知り合った男性と食事に出かけた際に誘拐され、犯人は身代金10億ウガンダシリング(約4000万円)を要求しました。警察の介入により女性は同3日に無事解放され、主犯の男性他3名が逮捕されました。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的にされる可能性は低い情勢です。

以上